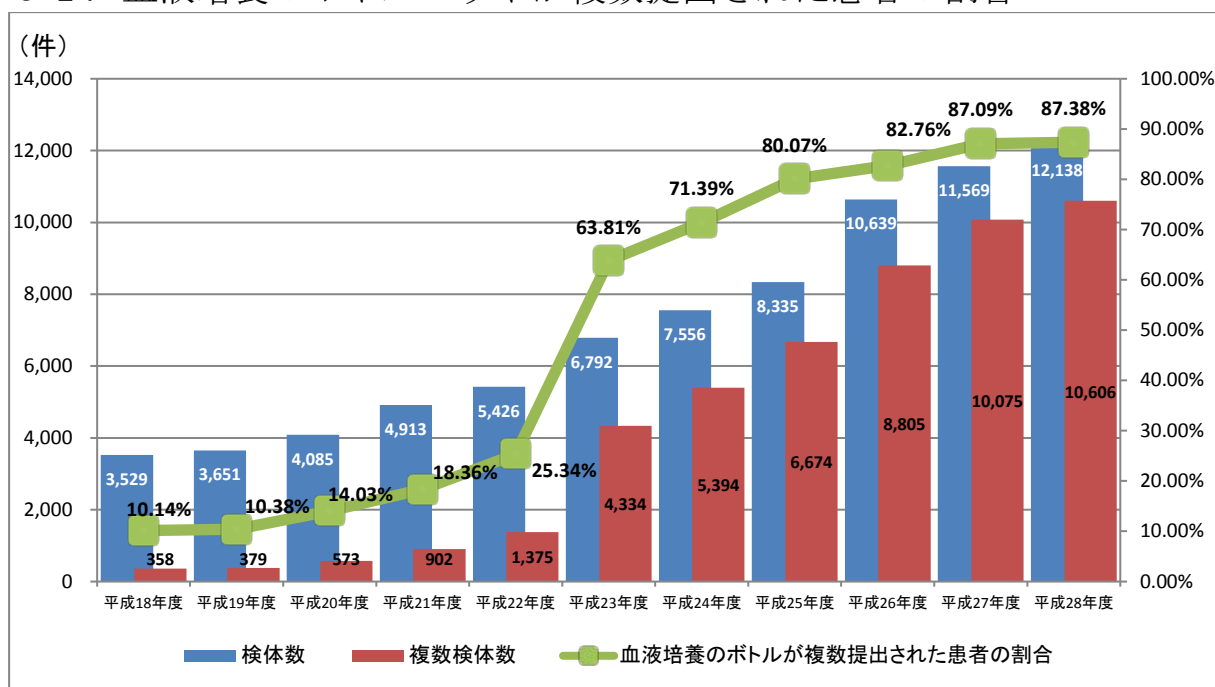


## 9 1. 血液培養のボトルセットが複数提出された患者の割合



敗血症(菌血症)の診断、治療、予後において血液培養検査は、原因菌(起炎菌)を特定する重要な検査項目である。しかし、稀に原因菌以外の皮膚常在菌の混入によるコンタミネーションが発生する。その検出菌が本来の原因菌であるかコンタミネーションによる菌であるかを判別するため同時2セット以上の検査実施が推奨されている。

正確な診断・治療を行うための検査結果を得るために、当院での2セット以上の血液培養検査の実施率は年々増加傾向にある。小児や採血困難者における2セット以上採血採取は困難であり、現状の80%以上は比較的良好な比率であると思われるが、血液培養検査を適切な診断に繋げるためにも85%以上の2セット提出を維持していきたい。

データ提供 臨床検査部